



弘前大学の産学連携の取り組み



弘前大学の概要

- 予算規模：42,412 百万円
 - ・運営費交付金：10,376百万円
 - ・自己収入：26,621百万円（附属病院収入、学生納付金収入など）
 - ・外部資金収入：2,705百万円（科研費、共同研究費、受託研究費など）
 - ・その他：2,710百万円

○教員・事務職：1,994名

- 学生：6,814名 ※附属学校除く
 - ・入学者の出身地：青森県37%
 - 北海道28%
 - 東北5県19%
 - その他15%
- ・留学生：207名

○類型：地域貢献型（3類型）



弘前大学の概要

人文社会科学部／人文社会科学研究科

教育学部／教育学研究科

医学部医学科／医学研究科

医学部保健学科／保健学研究科

理工学部／理工学研究科

- ・**学部**
 - 教養科学科
 - 物質創成化学科
 - 地球環境防汚学科
 - 電子情報工学科
 - 機械科学科
 - 自然エネルギー学科
- ・**理工学専攻**
 - 数理科学コース
 - 物理科学コース
 - 物質創成科学コース
 - 地球環境学コース
 - 電子情報工学コース
 - 知能機械工学コース
 - 新エネルギー創造工学コース

農学生命科学部／農学生命科学研究科

- ・**学部**
 - 生物学科
 - 分子生命科学科
 - 食料資源学科
 - 国際園芸農学科
 - 地域環境工学科
- ・**農学生命科学専攻**
 - 生物学コース
 - 分子生命科学コース
 - 生物資源学コース
 - 園芸農学コース
 - 地域環境工学コース

地域社会研究科

地域共創科学研究科（2020年4月開設）

ばげび医療総合研究所

地域戦略研究所

本部

- ・OOC推進本部
- ・国際連携本部
- ・地域創生本部

機構

- ・研究・イノベーション推進機構
- ・研究開発推進部門
- ・イノベーション推進部門
- ・知的資産部門
- ・リスクマネジメント部門
- ・共用機器基金センター
- ・URA室
- ・COI研究推進機構
- ・社会連携推進機構
- ・教育推進機構

共同研究制度



- 研究期間：研究内容等に応じて柔軟に設定が可能です。
- 知的財産権の取扱い：本学と民間機関等との共有となり、持分は貢献度を踏まえて決定します。
- 税額控除制度の適用：試験研究のために使用した費用の一定割合を税額控除できる、特別試験研究費税額控除制度を適用できます。
- ご負担いただく経費：
 - ・直接経費
 - ・研究料 年額税抜き40万円／人（派遣型のみ）
 - ・間接経費 直接経費の10%

学術指導制度



- 製品や研究開発等に対する指導・評価・助言
- 企業等が行う業務のコンサルティング
- 企業等からの技術相談
- その他指導・評価・助言 など

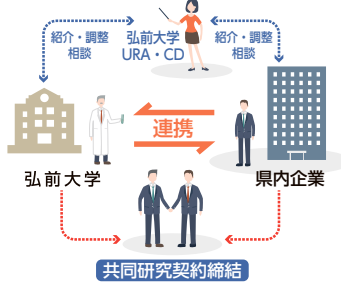
- 研究期間：学術指導の内容等に応じて柔軟に設定が可能です。（例：毎月1回・1時間の会議を1年間、分析10時間など）
- 知的財産権の取扱い：別途協議
- ご負担いただく経費：
 - ・直接経費
 - 技術料：1時間あたり税抜き10,000円以上
 - 必要経費：旅費、消耗品費等
 - ・間接経費 直接経費の20%

「弘前大学グロウカルファンド」

- 共同研究を通じた人材育成による青森県の産業振興及び地方創生を目指して、県内企業等と弘前大学の共同研究において、企業が弘前大学に支払う共同研究費を1件あたり年間100万円を上限として支援します。
- 今までに17社23テーマが採択され、共同研究を実施。青森市の企業と連携した揚水用小型風車製品化のための共同研究、八戸市の企業と連携した八戸菊を通じた地域貢献・地域ブランド化に関する共同研究などを実施しました。

<公募スケジュール（予定）>

- 公募開始：2020年2月頃
- 公募締切：2020年3月頃
- 採択課題の通知・発表：2020年4月頃
- 開始時期：2020年5月1日頃
- 終了時期：2021年3月31日
- 提案主体：企業



ひろさき産学官連携フォーラム

弘前地域を中心に産学官交流の場を提供し、新商品・新産業の創出を目指す

新商品・新産業の創出による地域経済の発展



<http://www.cjr.hirosaki-u.ac.jp/hirosaki/>

ネットビックスプラス

「地域版TLO・ネットビックスプラス」として、北東北3銀行の顧客や地域の課題を、北東北3大学の研究成果で解決するための取組みを行っています。



弘前大学、秋田大学、岩手大学の
特許などの知的資産情報
ニース情報 ⇄ 知的資産情報の提供
青森銀行、秋田銀行、岩手銀行の顧客ニース

産業の活性化及び地方創生を実現し、
地域の企業等および地域社会の発展に寄与する

研究成果の実用化事例

「黒ごぼう」をブレンドした
ペットボトル飲料「だぶる黒茶」

「黒ごぼう」とは？
ごぼうは青森県が生産量日本一の農作物です。一方で付加価値を向上させた加工品の開発や、売り物にならない規格外のごぼうの活用が課題となっていました。

「黒ごぼう」は、健康食品として人気の高い黒にんにくの製法を応用することで開発した食品で、生のごぼうにはない独特の甘みや風味があります。

柏崎青果、青森県産業技術センターとの共同研究にて、抗酸化活性、血糖値の上昇抑制、肝障害抑制の3つの機能性評価を実施し、研究成果を活用して盛田、丸大堀内、ひろさき産学官連携フォーラム、青い森の食材研究会と協力体制を組んで製品化しました。



弘前大学